

さとう健司

県政報告
Vol.6

小児保健医療センターの 充実に向けて

息子が乳幼児健診時にセンターで精密健診を受けた経験も踏まえ、将来構想の提言がまとめられた県立小児保健医療センターの充実に向けた県の取り組みを6月県議会で求めました。

Q 有識者や医療関係者による検討委員会での議論を受けてまとめられた提言をどのように受け止めているか？

A (知事) 提言を踏まえた取り組みを着実に進めていくことにより今後センターが健やかな子育ての拠点、万一の時の安心の拠点となるよう小児医療にかかる県立病院としての使命を果たしていく。

Q 提言では、重症患者の増加への対応や医師不足など喫緊の課題も指摘されている。センターの機能強化についてどのように進めていくのか？

A (病院事業庁長) 重症化する障害児などへの対応や周産期医療の後方支援の課題、地域の医療機関と連携した障害児の在宅医療の支援のあり方や成人に達した患者さんへの対応といった課題など今後、優先度を見極めながら必要な医療機能の充実に努めてまいります。

Q センターの病棟の新築を含めた再整備に取り組むべきだと考えるか？

A (病院事業庁長) センターは開設後25年を経過して、ベッドの周りに多くの医療機器を設置できるより広い病室の必要性や集中治療室の新設など施設面での課題は明確になっている。診療科の充実などについても検討しており、必要な医療機能確保するための施設整備にかかる検討も行っています。



国体開催が正式に決定

平成36年の第79回国民体育大会の滋賀県での開催が先月内々定しました。今年度、県議会に設置された「体育振興・健康づくり対策特別委員会」の委員として国体のあり方について議論をしています。今年度中には主会場が決定されることになっています。

県は、希望が丘文化公園、彦根市総合運動場、びわこ文化公園都市への新たな施設の建設の3案を示しています。しかし、現有施設はいずれも収容人数などの基準を満たしていないために大規模な改修が必要になります。

新たな施設の建設などについては、財政面など総合的に検討する必要があります。ですが、将来の滋賀県のスポーツの拠点整備も見据えて、国体終了後も有効に活用できる施設となるよう主会場を選定するとともに、
県都・大津市として積極的
に主会場の誘
致を図るべき
だと考えてい
ます。



びわこ国体の主会場「皇子山総合運動公園陸上競技場」

地域活動から

瀬田川やびわ湖の生態系の保全等を目的に今年度から始まった「瀬田川流域クリーン作戦」に参加しました。漁業者やNPOが協力して、びわ湖の固有種「セタジミ」の生息環境を整えるために、異常繁茂する水草の刈り取りなどを行っています。



滋賀県議会議員

さとう健司

- ◎文教警察常任委員会
- ◎体育振興・健康づくり対策特別委員会
- ◎議会定数検討委員会

皆様のご意見をぜひお聞かせください

〒520-2153 大津市一里山1丁目1-13-1305 sato@satoken.net